水産放浪歌

暗鬼紅灯の巷に彷徨う女性に恋するを不情の恋と誰が言うぞ。めんきこうとう ちまた さまょ じょせい こい ぶじょう こい だれ い の女性に恋するを純情の恋と誰が言うぞ。

月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なるまぜった。まずにいるというというというないであるというないがば風吹くもよし「寒のみ」。まるようない。まで、これでは、かぜい、かぜい、かぜい、かぜい、かぜい、かぜい

響く雷鳴 とどろ らいめい 女の膝枕にて一夜の快楽を共に過さずんば人生夢もなければ恋もなし。 月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ。 握る舵輪 睨むコンパス六分儀

吾らが水産放浪歌 また。 すいぎんほうぞう か 吾ら海行く 鴎 鳥。 さらば歌わん哉

、心猛くも鬼神ならず

行くや万里の荒波越えて 大和男子が 心 に秘めて 大和男子が 心 に秘めて が はばらりとずじみも が 1 をはばらりとがある。 で 1 をはずり 1 をがめて で 1 をデッキに浴びて こころ 1 をがめて に 1 をデッキに浴びて

男 多恨の身の捨てどころ三、波の他な方の南の光洋は三、波のかなか。 ない 洋は

行きて帰らじ望みは待たじゅ かぇ oet したがん かんる大願あれど

(仲田三孝作詞、川上義彦作曲)の注 成立事情不明なるも蒙古放浪歌